

IGS 日本支部賞

## 技術奨励賞を受賞して

茨城大学 安原 一哉・村上 哲

この度は、拙文「沿岸域における護岸のためのジオシンセティックスの適用」(ジオシンセティックス技術情報、2004.7) に対しまして、IGS 日本支部賞：技術奨励賞を頂き、まことに光栄に存じております。論文賞とあわせてダブル受賞の幸運に恵まれましたことを心からうれしく存じます。

対象になりました、上記拙文は、埋め立てを効率的に行うために適用することを除きますとこれまであまり事例のなかった港湾や海岸におけるジオシンセティックスの適用を提案したものです。報文の前半は、茨城県北部海岸で深刻な問題として悩まされている海岸崖の侵食に対する対応策にジオシンセティックスの適用を提案したのですが、施工法が厄介なのでまだ実用化されていませんが、景勝地“鶴の岬”(写真-1)を擁するお陰で日本一の人気を誇る国民宿舎をかかえる伊師海岸もこの崖侵食で悩まされており、いま、これを維持していく方策の提言に迫られていますので、茨城県にあるもうひとつの観光名所として有名な六角堂周辺の護岸事業で用いられた擬岩(写真-2)とは別に、ジオシンセティックスの適用を提案しようと考えているところです。

一方、後半のジオシンセティックス補強護岸の研究は、“剛な“コンクリート護岸に代わる”柔な“護岸として提案したもので、メキシコからの留学生 (Juan Recio 氏) が修士論文として取り組んだ成果をまとめたものです。この成果を持って、この留学生はドイツへ飛び、今、ブラウンシュヴェイグ大学(Braunschweig University)でこの成果を発展させるため研究を継続しています。

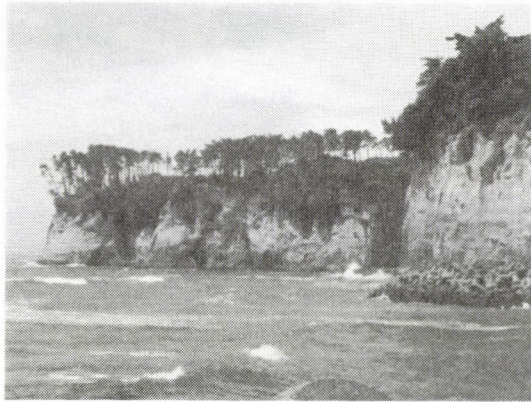


写真-1 侵食で悩まされる鶴の岬海岸  
(茨城県日立市十王町)

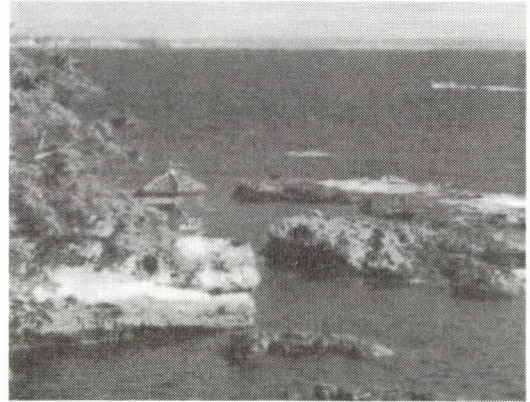


写真-2 修復された六角堂  
(茨城県北茨城市)

ところで、これらの二つの研究はいずれも海岸における自然斜面(海岸崖)と人工斜面(補強土盛土)に及ぼす波浪の影響を検討したもので、自然海岸の波浪を模擬できる造波装置を必要としましたので所属学科の水圏環境研究グループのご協力のご助言を得ました。取り組んできた問題は境界領域に属するものでしたので、こうした協力体制が技術開発とその進展に不可欠であることを思い知らされた研究作業のひとつでした。前記“鶴の岬”保全事業が始まろうとしている今、こうした体制を産官学で展開させて、基礎研究が実用化されるよう、引き続き努力を続けていきたいと考えているところです。